

授業科目及び時間数	基礎看護方法Ⅴ 1単位 30時間		
開講時期	1年次 前期		
担当教員	白鳥智美	実務経験	有
<p>科目のねらい・到達目標</p> <p>食事は日常生活そのものである。食事は、食欲を感じ、食物を口に入れ噛み砕いて飲み込む。そして、身体の中で消化・吸収し、身体に必要なものをつくる材料にする。身体に入るものがあれば出るものもある。外部環境から取り入れた食物や水を、内部環境を整えることに使った後に外部環境へ戻す行為が排泄である。看護の視点として、臓器や器官がひとつひとつの機能をバラバラに果たしているのではなく、消化・吸収・代謝・排泄という一連の流れを相互に関連していることを理解する必要がある。食事について看護師は、疾病や障害など何らかの理由で、食事ができなくなった、あるいは食事がしづらくなった対象者に、その人の通常の生活に近い状態で食事ができるように援助する役割をもつ。また、排泄については、対象者の自立に向けてその人が持てる力を最大限に発揮できるように援助を考えなければならない。皆さんが、対象の健康・生活を支える基本的ニーズを充足させるための食事と排泄の援助技術の基礎を身につけられるような学びをねらいとしている。</p>			
授業計画・内容・担当教員			
1回目	1. 食事の意義 2. 食行動のメカニズム	講義	
2回目	1. 消化と吸収のメカニズム 2. 食事介助の具体的方法	講義	
3回目	1. 栄養状態、摂食嚥下訓練について	講義	
4回目	1. 非経口的栄養摂取の援助方法 1) 経管栄養法 2) 中心静脈栄養法	講義	
5回目	1. 安全な食事援助の実際	演習	
6回目	1. 食事について 学習のまとめ 2. 排泄援助について考える	講義	
7回目	1. 排泄の意義 2. 排泄のメカニズム	講義	
8回目	1. 排泄に影響を及ぼす因子 2. 排泄機能・排泄行動のアセスメント 3. 排尿・排便障害について	講義	
9回目	1. 排泄援助の基本的技術 2. トイレ又は床上排泄援助	講義	
10回目	1. 尿器・便器をあててみよう	演習	
11回目	1. 導尿について	講義	
12回目	1. 浣腸・摘便について	講義	
13回目	1. 浣腸の方法 2. 持続的導尿	演習	
14回目	1. 排泄について 学習のまとめ	講義	
15回目	終了試験	筆記試験	
評価方法	筆記試験 100%		
受講生に対するメッセージ	授業は講義形式ですが、食事介助や排泄など演習があります。対象の健康・生活を支える基本的ニーズを充足するための知識・技術を身につけ、臨地実習に備えてもらいたい。そのため、積極的に臨み知識・技術の修得に努めてほしい。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院		
参考書			